

第42週の発生動向 (2004/10/11~2004/10/17)

- 1 手足口病については、上十三保健所管内で**警報**が出されました。
- 2 水痘については、青森、弘前、上十三保健所管内で増加傾向にあり注意が必要です。

第42週五類感染症定点把握

保健所名 疾患番号・疾患名	青森		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週からの増減)
	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	
(72) インフルエンザ															
(60) 咽頭結膜熱			2	0.20	1	0.11			1	0.17			4	0.10	3
(61) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	6	0.75	9	0.90	6	0.67			10	1.67	1	0.25	32	0.76	-1
(62) 感染性胃腸炎	14	1.75	9	0.90	7	0.78	3	0.60	2	0.33	15	3.75	50	1.19	-42
(63) 水痘	11	1.38	7	0.70	2	0.22	3	0.60	11	1.83	2	0.50	36	0.86	18
(64) 手足口病	1	0.13			6	0.67			32	5.33	6	1.50	45	1.07	7
(65) 伝染性紅斑	1	0.13	7	0.70	1	0.11							9	0.21	1
(66) 突発性発疹	2	0.25	5	0.50	6	0.67	4	0.80	3	0.50	3	0.75	23	0.55	-2
(67) 百日咳															
(68) 風疹					1	0.11							1	0.02	1
(69) ヘルパンギーナ	17	2.13			3	0.33	3	0.60			2	0.50	25	0.60	-2
(70) 麻疹(成人を除く)															-3
(71) 流行性耳下腺炎	7	0.88			11	1.22	3	0.60					21	0.50	1
(73) 急性出血性結膜炎															
(74) 流行性角結膜炎					6	3.00	1	1.00					7	0.64	4

	定点数			
	インフル エンザ	小児科	眼科	基幹
青森	13	8	2	1
弘前	15	10	3	1
八戸	14	9	2	1
五所川原	7	5	1	1
上十三	9	6	2	1
むつ	6	4	1	1
合計	64	42	11	6

インフルエンザ定点については、内科定点と小児科定点を合わせたものです。

■ は注意報、■ は警報です。 「空欄」: 患者発生数0

表 以外の感染症法対象疾患 (16年計には、今回届出された人数を含む)

(14) 腸管出血性大腸菌感染症 (三類全数把握疾患)	八戸保健所管内: 1人 (O157)	合計1人	(16年計 25人)
(29) つつがむし病 (四類全数把握疾患)	八戸保健所管内: 1人	合計1人	(16年計 3人)
(59) RSウイルス感染症 (五類定点把握疾患)	弘前保健所管内: 1人	合計1人	(16年計 56人)
(82) マイコプラズマ肺炎 (五類定点把握疾患)	八戸保健所管内: 1人	合計1人	(16年計 92人)

感染症の窓

後天性免疫不全症候群

(acquired immunodeficiency syndrome, AIDS, エイズ)

最近の動向 厚生労働省エイズ研究班の報告では国内で母親から感染した子が2003年までの過去20年間で少なくとも35人に上り、このうち9人が死亡、7人が発症していたことが報告されました。国内における現状では、日本人男性における感染者数の増加が目立ちます(図1)。

病原体 ヒト免疫不全ウイルス

(human immunodeficiency virus type1,2: HIV-1,2)

感染経路 HIVは感染者の血液・精液・膣分泌液に大量に含まれていることから、感染者との性行為、汚染した注射針の共用による感染や母子感染があります。また、HIVの混入した血液の輸血や、非加熱の血液製剤による場合もあります。しかし、HIVは食べものや水の中では生存できません。感染者と同じプールで泳いでも、同じ皿の中の食べ物を分けあったり、感染者と握手をしても感染しません。

母子感染予防 妊娠初期にはHIV抗体検査を徹底し、陽性の場合、出産時の感染対策をとる必要があります。

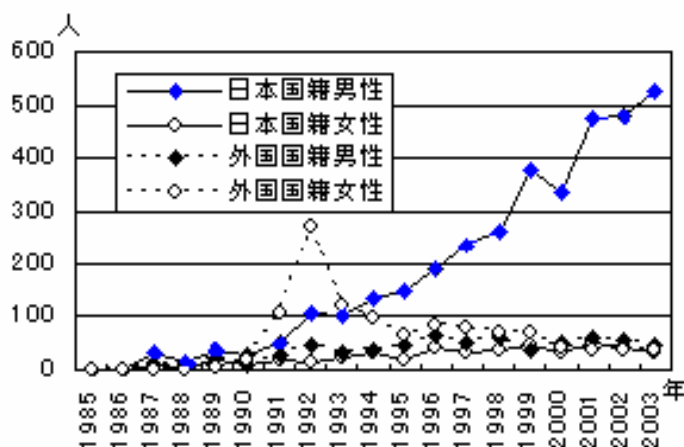


図1 わが国におけるHIV感染者報告数の推移 (エイズ動向委員会報告)